

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 1F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	令和5年4月25日	評価結果市町村受理日	令和5年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年5月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや北にあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。平成14年12月開設。館内の床は数年前に張り替えを行い、照明もLED化。20年の歴史と新しい雰囲気を持った施設です。利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持っておられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、清涼寺で行われるお松明、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった地域のイベントから、ボランティアによるコンサートといった数々のイベントを楽しんでいただく事ができます。「穏やかで安らぎのある暮らし」「心遣いや気配りの生活」「ゆったりと自由な時間」「地域と生きる私たち」という理念に恥じないように支援をしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階に同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかで安らぎのある暮らし、心遣いや気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念を掲げ、職員は毎日、朝礼でその理念を唱和し、意識するようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に長年加入しており、本年度は組長も担当。あわせて保健委員も担当しています。地域の嵯峨祭りの神輿の巡行の時には、施設の為に足を止めてくださったりもします。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括が開催している、会議や研修に参加し認知症の専門施設として、意見をするなど、事業所の力を地域で生かしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、しばらく書面開催としていましたが、対面での運営推進会議を再開。提供しているサービスの内容や、事故、取り組み等、報告を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種書類の提出や、運営推進会議の議事録提出の際など、直接担当者とお会いし、情報交換を行うなど、連携が取れるよう努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	嵯峨野そよ風では、危険防止の為でも身体拘束行わない事を職員、家族様にも明言しています。身体拘束に関する研修も、予定を定め、定期的実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会の開催を行っており、ユニットの現状について話し合いを行っています。議事録の回覧もおこなっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられますが、制度について学ぶ機会はなく、職員が十分に理解しているとまでは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	センター長やケアマネ、管理者が契約の締結や解約を行っています。契約前より、十分な説明を行い、不明な点がないようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナが落ち着き、家族の面会も再開し、家族様の意見や要望を直接お聞きできるようになりました。玄関に意見箱を設置したり、契約書に相談窓口を記載したりし、意見を出しやすい環境を整えています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	4月以前は、センター長が施設の事務所に席を構え、館内を巡回したりしていましたが、4月より、センター長が変更、さらに複数の施設の長を兼任する形になったため、今後、どのように意見や提案をするか、手探り中。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長やユニットのリーダーとの面談があり、職員がその時々のお考えを伝えられるようになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー会議にて、各ユニットの担当者より、職員の育成状況や勤務状況をセンター長に報告しており、新人の育成や、職員の課題や様子など、センター長に伝わるようになっています。また、職員のスキル等を定期的に評価も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は外部の研修や、会議等を通じ同業者と交流する機会がありましたが、しばらくコロナにより、交流は行っていません。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と面談。ケアマネや利用していたサービス事業所、家族様よりも情報を確認し、適切なサービスを提供し、信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様と面談を行い、要望をお聞きしています。入居前、入居後も連絡を取り、良好な関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ケアマネ、家族様、他サービス事業所との事前の連絡を通じ、どのようなサービスを本人、家族様が必要とされているかを確認し、利用者様第一で対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が何が出来て何が出来ないのかを職員間で共有。出来ない事については、職員が支援を行い、一方的にならないようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの為、家族の面会が出来ない期間が続いていましたが、現在は、面会も再開。家族様に心のケアの部分を手助けして頂いたり、イベントにお誘いし、手伝っていただくなど家族様にも利用者様を支えてもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで途切れて以降、積極的にできているとは言えない。今後の課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者様、それぞれの性格をや能力を把握しており、皆様が良い関係を作れるよう、相性を考えるなど、援助や工夫を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様についても、施設で行っていたケアを伝えたり、ご家族様にその後の様子をお伺いする連絡を行うなど、関係を立ちきらない取組み、行っています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者様の援助を行ったり、コミュニケーションをとる中で、その思いを把握するよう努めており、新しい気づきは発見があった場合には、ノートに記載する等、職員で共有するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご家族様や、ご本人様、ケアマネ、利用中のサービス事業所より情報をお聞きし、シートを作成、閲覧し職員間で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子より、気づいた事を職員間で申し送りをしたり、毎月のフロア会議や定期的なアセスメントで分析したりと、一人一人の能力や生活の様子、個性を把握し本人に合わせたケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の様子をもとに、カンファレンスを行い、医療面、面会時の家族様よりのご意見、介護職員の意見を踏まえ、新たな介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPADによる記録をおこなっていますが、定型文の利用等、記録が画一的になり、利用者様の細かい変化が、わかりにくくなっています。現在、音声入力を使う等、一人一人の日々の様子がわかるよう、記録の充実をはかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の日々の変化に合わせて、その時々最適と思われるサービスを提供するよう心がけていますが、既存のサービスにとらわれない柔軟な支援ができているとまでは言えない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にカフェを開いたり、体操を行ったりされているのは把握していますが、利用はできておらず、そういった地域資源を十分に生かしているとは言えない。近隣の自然環境については、散歩等、利用できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続する事ができる事について説明を行っており、センターと提携している医療機関の他に、今までのかかりつけ医も継続して利用されている方もおられます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職はいませんが、訪問看護ステーションと提携しており、週一回の体調管理と緊急時には24時間体制での相談や指示をおおぐ事ができるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設よりサマリーを病院に提出したり、病院、家族様と連絡をとり、治療内容や経過の把握を行ったりしています。病院は地域連携室、センターはユニットリーダーと窓口をほぼ固定し、しっかりとした関係ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期に向けたセンターの指針について説明を行っています。また、その時々、センター、家族様、医療関係者で話し合いを行い、今後の方向性の確認や共有化を行っており、看取りとなる方もおられました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルや研修はありますが、全ての職員が実践力を身に付けているとまでは言えない。センター長やリーダーを中心に対応を行っています。事故は報告書に回覧し、どのような対応や行動をしたかを共有化しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の避難訓練とともに、消防署の立会いの下の訓練も実施を行っていますが、参加した職員中心で全職員が対応を身に付けているとは言えない。		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会の開催し、職員の対応や声かけが適切に行えているか検討しています。お互いに声をかけあい、言葉かけが悪化しないよう注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、利用者様の思いを確認するよう声かけを行っており、本人の思いを尊重するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜中に起きられ、ご飯を食べていないと訴えられる利用者様に、ちょっとした食べ物をお出して雑談、穏やかに過ごせるよう援助したり、その方の思いを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やシャンプー、以前より着ていた洋服を家族様にお願ひし自宅よりもってきていただくなど、その人らしい装いができるように支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べる力を職員は把握しており、個人毎に合わせた食事を提供しています。食器拭き等、利用者様が参加して下さる事もあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食や、ダイエットの為の少な目の食事や補助栄養食を追加している方など、各利用者様の要望や状態に合わせた対応を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関である西沢歯科の指導に従い、口腔ケアを実施しています。医師の指示については、回覧し、職員で共有を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、日頃接する中で利用者様の排泄のリズムやサインを把握しており、サインがあれば迅速に誘導したり、少し長めにトイレに座っていただくなど、習慣を活かし、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	しっかり水分がとれるよう援助をしたり、規則正しい生活等、便秘の解消を心がけていますが、下剤によるコントロールも併用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員より、週2を基準に利用者様に声かけを行い、希望される方の入浴を行っています。その日の気分により、辞退される方もおられます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食の後、1時間程ベッドで休まれる習慣を持つ方や、早朝より起きてこられる方等、筋力の低下防止等も考慮しつつ、その人の思いを尊重した睡眠や休憩の援助を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より、薬の内容や副作用等を詳しく記載した処方箋を受け取るとともに説明を聞き、職員で共有。ファイリングし、確認しやすく、また、受診時に持参できるよう工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、各利用者様の能力、好きなこと、得意な事、苦手な事等把握に努めており、各々に合わせた支援をしています。飲み物でも、コーヒー、紅茶、お茶を好みに応じてお出ししています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の希望に沿った外出支援は正直、出来ていません。家族様の協力も得ながら、外出支援ができるよう工夫していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っており、お金を所持されている方はありますが、使う機会はほとんどない状態となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在はおられません、家族に手紙を書いたり、電話をされたりしている方もおられました。携帯電話をお持ちだった方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は窓も大きく、障子をはめられ明るく柔らかい雰囲気となっています。窓の外には緑も多く、四季を楽しむことができます。館内の飾りも季節に応じた物に変更をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席の他にフリーのソファも設置されており、楽な姿勢でくつろいでコーヒーを飲んだり、仲の良い方と雑談したりなど、自由に使えるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に説明し、本人が生活していた環境より、使い慣れた物や好みの物をお持ちいただき、居室を整え、過ごしやすい部屋となるよう配慮を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設は、グループホーム専用に設計された建物で、各所に手すりがあり、段差もなく、トイレも広く設計されており、車いすの方でも自分で行きやすい等、出来るだけ安全に、自立した生活を送りやすいよう工夫されています。		